

【京都】京都府立医科大学泌尿器科

【古都の中心・伝統ある校風】

京都府立医科大学は来年創立150周年を迎える伝統ある大学です。京都の南北を流れる鴨川のそばにあり、京都御所も目の前にあります。敷地のすぐ外が鴨川なので、ランチを鴨川でということも可能です。



【質・量とも豊富な関連施設と多彩な出身大学】

私たち泌尿器科学講座も1964年の開設後約57年の歴史があり、多くの同門の先生が大学附属病院をはじめ京都府地域の基幹病院・滋賀県・大阪府などに広がる関連医療施設で活躍しており、その関連病院の多さでは定評があります。京都府外の関西圏では大阪府では松下記念病院、済生会吹田病院が、滋賀県では近江八幡市民病院・長浜市立湖北病院が主だった関連病院です。関西圏以外でも清水厚生病院（静岡市）・名古屋泌尿器科病院（名古屋市）・富士宮市立病院（静岡市）などがあります。同門会の先生の出身大学も極めて多彩で、京都府立医科大学のほか、東北大学、慈恵医科大学、自治医科大学、帝京大学、東京大学、杏林大学、金沢大学、信州大学、大阪大学、京都大学、愛媛大学、徳島大学、香川大学、山口大学、鳥取大学、浜松医科大学、滋賀医科大学、三重大学、高知大学、和歌山県立医科大学、名古屋市立大学、大阪医科大学、兵庫医科大学、近畿大学、関西医科大学、などの出身の先生がおり、入局後の卒後教育や教官や部長などになる機会も出身大学に関係なく平等に開かれています。

【Professionalを育むシステムと将来性】

入局後、専攻医の先生は基本的には1年間は大学で研修し、2年目からは関連病院での研修を行います（入局者の人数によっては1年目に関連病院で研修して2年目で大学病院に戻る先生もいます）。その後、4.5年目で再度大学病院に戻り、今度は1年目の先生に対し指導的な立場で病棟管理を行います。希望者は大学院に入学し基礎研究や臨床研究などを行います。その後は、関連病院での研鑽を積む医師や開業する医師、大学で研究と臨床に携わる医師などそれぞれによって進路が分かれます。浮村教授自身が南カリフォルニア大学で教授をしていたこともあり、希望者には海外留学は積極的に進めています。臨床・教育・研究を通じて、その成果は世界に先駆けた最先端の診断・治療技術の開発から、その臨床への導入・応用・発展へと結び付け、本学の理念である「世界最先端の医療を地域へ」を日々実践しています。



【前期専攻医からのメッセージ】

宮本まどか 2020年度入局（三重大学出身）：3年目前期専攻医として4月から京都府立医科大学附属病院で勤務をしています。もともと外科系を希望していましたが、初期研修2年目の7月に初めて泌尿器科に触れ、疾患や診療の幅広さ、手技の多さに魅力を感じ、入局を決めました。当院では2~3人で1チームとして診療にあたっています。その中でTURBTやTULなどは執刀医として手術を任せさせていただくこともあり、またロボット手術などは助手として参加し、大変勉強になっています。上級医の先生方は優しく、なんでもフランクに質問できる環境なので、不安なく勤務できています。また、京都府内の関連病院での非常勤勤務の機会が5回前後/月あるため、外来診療の勉強や手術経験も積むことができ、収入面でも不安はありません。現在当院には3人の女性医師の先生方がいらっしゃり（関連病院を含めるとさらに多くなります）、個人的な相談にものっていただけるのも魅力です。



このようにとても恵まれた環境で泌尿器科医としてのスタートをきれたのではないかと思います。先生方からご指導を賜りつつ、これからも研鑽を積んでいきたいです。

【医局長からのメッセージ】

研修医のみなさん、こんにちは。卒後22年目になります、藤原です。COVID-19の拡大で、病院実習なども制限が出て不安な日々を過ごされている先生も多いかと思えます。私たちも、当院の見学を希望される先生方の希望に思うようにそえなかったり、以前は行っていた医局説明会に制限が出たりでもどかしい気持ちでいます。



我々の大学の泌尿器科教室は、浮村教授を筆頭に、8人のスタッフ（教授、准教授、講師、助教）と8人の専攻医（前期、後期）で主に病棟、外来業務を行っています。10人の大学院の先生にも検査や外来などのお手伝いをいただいています。医局員は仲良く、皆で協力しながら多くの業務をこなしています（以前は手術後によく飲みに行っていました。今はコロナ禍でいけないのが残念です）。個人的な話ですが、私は5歳の息子がいますが、教授をはじめスタッフの先生方も子育てに理解があり、皆さんに助けをもらいながら手術も外来も医局長業務もやらせてもらっています。2年前には南カリフォルニア大学へ留学もさせていただき、家族での留学で貴重な経験になりました。泌尿器科は外科系ですのもちろんチーム医療が基本で、患者さんにベストな医療を提供するためには必須ですが、当泌尿器科は多様性を認める環境であるのありがたいと思っていますし、今後泌尿器科がさらに発展していくためには必須と考えています。泌尿器科は経尿道的手術から開腹術、ロボット支援手術を含む腹腔鏡手術など手術も様々な方法があり、また対象も小児や女性などまさにゆりかごから墓場までと広い分野を含んでおり、先生方が一生の仕事にするのに値する分野と思います。ぜひ一緒に頑張らしましょう！興味のある先生はご連絡ください!!お待ちしております!!